

令和4年度第3回前橋市食育推進会議(書面) 質問及び意見への回答

1 議事

(1)第4次前橋市食育推進計画原案について

意見・質問あり

No.	委員名	ご質問等	回答
1	委員	1. 統計データ等からみえる現状 ・6頁、グラフ「本市の総人口と年齢(3区分)別人口の推移 説明に合わせ、 <u>高齢化率の折れ線グラフの令和2年の箇所に「30. 8」を 追記すると分かりやすくなると思う。(平成17年の「20. 5」、令和12年の 「34. 4」と同様に令和2年も記載する)</u>	【健康増進課】 ご指摘のとおり、追記します。
2	委員	・10頁、「(3)健康の状況」の3行目 「主に高血圧性疾患が全国よりも高い状況(略)」と記載しているが、11頁 の表「 <u>主な死因の死亡率</u> 」をみると、 <u>他にも高いものが沢山あるので高血 圧性疾患だけを「主に」とした理由が分かりにくい。ここは「高血圧性疾患な ど複数の疾患が全国よりも高い状態です。」</u> などはいかがでしょうか。	【健康増進課】 各項の整合性を図り、ご指摘のとおり、修正します。
3	委員	2. 市民意識調査からみえる現状・主な調査結果 ・16頁、「 <u>⑤夕食おける野菜摂取の状況(20歳以上の市民、専門、短大、 大学生)</u> 」の1行目「 <u>男性の50代、60代、…(略)</u> 」ですが、 <u>男性は50代、 60代、70代だけではなく全ての年代で「全く食べない～半皿未満」が多い のが特徴</u> と思った。 文章を「 <u>男性は女性に比べて「全く食べない～半皿未満」が多い傾向があ り、特に50代、60代、70代以上が高くなっています</u> 」はいかがでしょうか。	【健康増進課】 ご指摘のとおり、修正します。

4	委員	<p>・17頁、「⑥共食の…(略)」の共食という用語は、あまり市民に浸透していないように思う。共食の定義があれば注意書きとして「<u>共食とは</u>」を説明したらよいと思う。(14頁のBMIのように)。 <u>33頁にも共食について、その意義を説明する枠を作ったらいかがでしょうか。</u>(食品ロスのように)。</p>	<p>【健康増進課】 共食の説明の他、メリットについても追記します。</p>
5	委員	<p>・19頁「⑫「<u>主食・主菜・副菜…(略)</u>」の1行目「<u>60代、70代以上で「ほぼ毎日」の割合が最も高く、なっています</u>」の説明ですが、他の年代でも「<u>ほぼ毎日</u>」が最も高くなっているの<u>で、この説明は適切ではない</u>と思う。「60代、70代以上で「ほぼ毎日」の割合が6割をこえています。」はいかがでしょうか。</p> <p>・23頁「⑳新型コロナウイルス感染症の…(略)」の1行目ですが、<u>割合の多い順に「<u>自宅で食事する回数</u>」や「<u>自宅で料理をする回数</u>」(の順)で、「<u>増えた</u>」の割合が高い傾向です</u>はいかがでしょうか。</p> <p>・24頁「①20歳以上の市民」の2行目「<u>低い傾向がみられました</u>」ですが、<u>低いと言っても単身世帯の中で比較すると最も多いので「他の世帯に比べて低い傾向がありました」という表現はいかがでしょうか。</u> 同様に下段1行目も「<u>主食・主菜・副菜</u>」の3つを揃えた…(略)」は「<u>他の体格に比べ「<u>主食・主菜・副菜</u>」の3つを…(略)</u>」にすると良いと思う。</p> <p>・25～28頁の有意水準の示しかたですが、例えば25頁の4行目「<u>分かりました。(P<0.05)学業への…(略)</u>」となっています。0.5という有意水準は前の文章にかかっているの<u>で、「分かりました(P<0.05)。学業への…(略)」にした方が</u>良いです。7箇所ありました。</p>	<p>【健康増進課】 ご指摘のとおり、修正します。</p>
6	委員	<p>3. 学校、保育所等における食育 ・45頁「<u>取り組みと方針と具体的施策</u>」と次の行の「<u>2-1 保育所等での食育の推進</u>」が詰まっているので、1行空けると見やすくなる。同様に47頁「<u>3-1</u>」、52頁「<u>4-1</u>」、55頁「<u>5-1</u>」、57頁「<u>6-1</u>」もです。</p>	<p>【健康増進課】 見やすくなるよう体裁を整えます。</p>

7	委員	<p>・第1章では、前橋市の食育推進計画の策定にあたり国や県の考え方に沿いながら、<u>より具体的に市民生活を支援する形で計画されていることがわかる。</u></p> <p>・4頁の「<u>計画の策定体制</u>」が追加掲載されたことも策定の全体像を市民に<u>分かりやすく示してある</u>と思う。</p> <p>・日々の食生活を通した「<u>市民の健康寿命の延伸</u>」に変更されたのは、<u>とても良かった。また、食物アレルギーや減塩対応の内容が盛り込まれたことも重要なこと。</u></p> <p>・随所に食育ピクトグラムやQRコードが掲載されていることも目をひく。コロナ禍でQRコードは市民に浸透してきているようだ。携帯端末をかざせば簡単な操作で申し込みや登録ができる上、関連資料を深く読むこともできる。若い世代から高齢者まで世代を超えて便利に使うことが出来そうだ。従来の記述も必要だが、紙面の場所もとらず<u>沢山の情報を盛り込むことができるQRコードの活用を進めてほしい。</u></p>	<p>【健康増進課】 次期計画の素案等でご意見があった各項を整理し、修正、追記し、より分かりやすい表現にしました。 健康増進課では、ホームページに栄養情報を掲載していますので、各教室等でQRコードを紹介し市民の方に広く活用を進めていきます。</p>
8	委員	<p>食育は、まずは家庭から始まり、その次が社会と繋がる給食なのかと思う。それに携わる方々の真剣な取り組みが伺える。 第4次前橋市食育推進計画原案の調査結果は、色々な方々がおり十人十色、又は千差万別な家庭環境等もあり、それも踏まえての長期調査の結果かと思う。また、開始時点から考えれば食育という言葉の浸透率も上がったのではと思う。 値上げの昨今では、給食の金額にも厳しいところもあるが、概要版のような素敵なメニューに取り組んでいただけたらと思う。予算確保というのは、かなり難しいかと思うが、医療費の無償化と同様に、<u>給食の無償化が第3子からではなく考慮される機会があることを願う。</u></p>	<p>【教育委員会総務課】 学校給食においては、学校給食法第9条に人件費や設備等については公費負担、それ以外(賄い材料費)は保護者負担とされておりますので、原則、保護者が負担すべきものと考えております。 また、完全無償化にするには本市では市全体予算の約1%の約14億円が必要であり、継続的な財政負担を考慮しますと難しい状況であると考えています。</p>

9	委員	<p>32頁「減塩を心かけましょう」 減塩のポイントが具体的に記載されており、分かりやすく良いと思う。 <u>「まずは、食塩マイナス1gを目指しましょう」とあるが、1食あたりなのか、1日あたりなのか、一見にして分かりにくいと思った。</u> <u>実際1日あたりどのくらいの食塩を摂取しているのか、そのうち1g減塩とはどのくらいのイメージなのか伝わると、さらに良いと思った。</u> 例えば「日本人(あるいは群馬県民)の1日当たりの食塩摂取量は平均〇〇gとされていますが、まずは1日1gの減塩を目指しましょう(意識しましょう)」などの表記はいかがでしょうか。</p>	<p>【健康増進課】 「できることから減塩に取り組むことで、徐々に薄味に慣れていくこと」が伝わるような、分かりやすい表現に見直します。</p>
10	委員	<p>計画目標を健全な食生活を通した「市民の健康寿命の延伸」との変更されており、健康であるためにはやはり健全な食生活が最も大切であり、基本と思うので、変更されて良かったと思う。 <u>また、学校、保育所等での食育の推進に給食における食物アレルギーへの対応に関する内容を追記してあり、食物アレルギーは命に係わることで、アレルギーの重症度に応じた対応などが必要となる</u>と思い、食育の充実を進めるためにも追記されて良かった。</p>	<p>【健康増進課】 次期計画においても引き続き食物アレルギーを有する子供達が、食事を楽しみながら十分な栄養を摂取することが出来るように努めます。</p>

11 委員	<p>統計データについて 耕地面積は減少傾向にあり、農業就業が減っているというのは理解できるが、地産地消を推奨してますが作物の量はどうなっていくのかその方向は出されているのか心配の一つです。 <u>農業の法人化が進んでいるという話を聞くが、農業就業との関係はどうなっているのか知りたい。</u></p>	<p>【農政課】 平成21年度の農地法改正により企業や法人の農業参入(農業の自由化)が容易になりました。また、農地についても賃借であれば企業や法人等、農地を確保することが可能になりました。これにより企業や法人の農業参入が進んでいると考えられます。 本書にある統計データの「農業就業人口の推移」は「<u>自営農業に従事した者</u>」であるため、法人の農業参入との関係性については不明です。(回答が困難です。)</p>
	<p>今は多くの人が外食かお弁当を買ってお家で食べる等の話を聞く。<u>3食のうち外食をどのくらいの割合でしているのか気になる。また、共食とあるのはお家で食べるのみか、家族で又は友達と一緒に外食をすることは含まれていないのか疑問です。</u></p>	<p>【健康増進課】 令和3年度に実施した「前橋市食育に関する市民意識調査」における外食の使用頻度は、月に1～2回と回答した方が約4割でその割合が高くなっています。 共食の定義は、原案79頁のとおりですので、家庭以外の食事も含まれます。</p>
	<p>ダイエットの問題ですが、正しく健康問題が理解されていれば問題はないが、<u>痩せているのにダイエットしたいとか、もちろん太っている人は健康上必要なことです。太った、痩せたに関わらず正しい痩せ方教室なるものがあったら興味関心をひくと思う。</u> 世の中には、痩せるためのあらゆるノウハウ本やメディアで流されているが、<u>決してうのみ</u>にできるものではありません。その辺りの手立てが必要かと思う。</p>	<p>【健康増進課】 「健康ダイエットサポート教室」を働き世代を対象に、企業向けと教室形式で実施しています。それぞれの生活スタイルに合わせ、管理栄養士による食事の基本や保健師による運動の講話を取り入れながら、正しい減量をサポートしています。今後も引き続き実施する考えです。</p>

(2)第4次前橋市食育推進計画概要版について

意見・質問あり

1	委員	表紙に理念や基本方針が掲載されていて、無駄なく分かりやすい印象です。 特に <u>ライフステージごとの取り組みが見やすく、工夫されている</u> と感じた。 普及版として全体的にとっても良い仕上がりに思う。	【健康増進課】 朝食欠食の改善は、次期計画においても重点的に推進すべき栄養課題です。大学生等の若い世代も含め多くの市民に概要版等を活用し情報提供に努めます。
2	委員	とても分かりやすく、食育プランについて理解しやすいと思った。今後なるべく多くの方に手に取っていただき読んでもらいたい。特に朝食欠食の多い学生には「まずは食べられそうなものを食べましょう！」から始まるイラスト説明の部分など良いと思った。	
3	委員	減塩の部分で使われている「 <u>スープは残すようにしましょう</u> 」のイラストについて、 <u>絵や簡単なイラストに示すことでやる事が明確になるが、別の項目SDGsで食品ロスや環境配慮についてふれている点からすると、違和感がある。</u>	【下水道整備課】【健康増進課】 県でも同様に、めん類の回数や汁を残すことが、減塩につながる取組として提案していることから、概要版では、減塩につながる身近な取組として提案したいと考えます。 参考になりますが、農林水産省が実施している「食品ロス統計調査」では、必ずしも完食しないめん類の汁は食べ残し量には含まれていません。 また、下水道区域ではスープに含まれる油や固形物は「トラップ柵」と呼ばれる排水柵が各家庭に設置されており、水の層だけが下水道に流れていく仕組みになっているため、汚水処理への影響を最小限に抑えています。

(3) その他

意見・質問あり

1	委員	<p>概要版に「減塩に取り組もう」「調味料はかけるより、つけましょう」とあるが、<u>現在の給食での調味料はどのようにしているか</u>教えてください。 小分けした物なのか？ 共同で使う物なのか？ 必要がないように調理されているのか？</p>	<p>【教育委員会総務課】 ソースなどは学級ごとに用意したものを、配膳前に食缶バットに入っている際に、当番がソースを全体的にかけ、個人的に足りない子が追加しているのが多いようです。また、味付きのものが用意できる場合は、極力取り入れています。</p>
2	委員	<p>高齢者の一人暮らしは増える一方です。食生活は乱れがちかと思う。<u>楽しくみんなで食事ができる制度があればよい</u>と思う。各地区でいきいきサロンなど開かれているが、<u>月に一回食事会が開けたらいい</u>と思う。</p>	<p>(長寿包括ケア課) はつらつカフェ、認知症を語るカフェ、ふれあい・いきいきサロン等、地域の交流の場、集いの場ではお茶を飲みながらの歓談や、会によっては簡単なおやつ作りや食事会をしているところもあるようです。コロナ禍という状況で飲食を伴うような活動は控えているところだと思われませんが、今後の社会活動の再開状況により、徐々にそういった機会も再開されるかと思えます。楽しい食事の時間を持つことは、社会参加の面からもフレイルの予防として非常に有効と考えます。</p>